授業科目・単位

区分	授業科目の名称	聴講	単位数	時間数	授業形態			年次配置	
					講義	演習	実習	前期	後期
基礎分野	倫理と教育	可	2	30h	○	○		○	
	情報と教育	可	2	30h	○	○		○	
	教育の原理	可	1	15h	○	○		○	
	青年期の発達と学習	可	1	30h	○	○		○	
	教育環境	可	2	30h	○	○			○
専門分野	看護の本質と専門性Ⅰ　(概論)	可	1	30h	○	○		○	
	看護の本質と専門性Ⅱ　(概念規定)	不可	1	30h	○	○		○	
	教員と学生の理解	可	1	15h	○	○		○	
	看護学教育制度論	可	1	15h	○	○		○	
	看護学教育課程論Ⅰ　(カリキュラム編成の基礎)	可	2	45h	○	○		○	
	看護学教育課程論Ⅱ　(カリキュラム構造の理解)	不可	1	15h	○	○		○	
	看護学教育課程論Ⅲ　(カリキュラム編成の実際)	不可	3	90h	○	○		○	○
	看護学教育授業展開論Ⅰ	可	2	45h	○	○		○	
	看護学教育授業展開論Ⅱ　(講義)	講義のみ可	4	135h	○	○	○	○	○
	看護学教育授業展開論Ⅲ　(演習)	講義のみ可	2	60h	○	○	○	○	○
	看護学教育授業展開論Ⅳ　(実習)	講義のみ可	3	105h	○	○	○	○	○
	看護学教育評価論	可	2	60h	○	○		○	
	看護学教育研究Ⅰ　(研究の理解)	可	1	30h	○	○			○
	看護学教育研究Ⅱ　(研究成果の活用)	可	1	30h	○	○			○
	看護学教育組織運営論	可	1	15h	○	○			○

科目区分	基礎分野		聴講	可
授業科目名	倫理と教育			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	2単位　30時間	
科目責任者	横山京子	その他		
担当教員	横山京子，中西陽子			
授業の概要	看護学の教育者は、看護倫理を基本に据えたうえで看護実践ができる看護職者の育成をする必要がある。この授業では、看護実践及び看護学教育実践における倫理的原則を理解し、看護学教育者として倫理指針となる知識・技術・態度を修得する。			
学科目的	医療、教育の現場における倫理的諸問題を理解し、教育学的視点から考察する。			
学科目標	1．看護実践及び看護学教育実践において遭遇する倫理的問題を理解する。 2．看護実践及び看護学教育実践における倫理的原則の特徴を理解する。 3．教育者としての倫理的責任を理解する。 4．医療者、教育者として倫理的な行動をとる重要性について理解する。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	医療における人権に関する倫理	講義	必要に応じて学習課題を提示	中西
2	看護師の職業倫理	講義		中西
3	患者の権利に関する倫理	講義		中西
4	看護実践において遭遇する倫理的諸問題の分析を通し、看護師の倫理的責任と看護行為を検討する	講義 演習		横山 中西
5				
6				
7	成果発表			
8	看護学教育における倫理指針（1）	講義		横山
9	看護学教育における倫理指針（2）	講義		横山
10	看護学教育における倫理指針（3）	講義		中西
11	事例検討	演習		横山
12	看護学教育内容、方法における倫理	講義 演習		横山 中西
13				
14	成果発表			
15	まとめ	講義		横山

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・石井トク，野口恭子：看護の倫理　資料集，丸善，2004. ・サラT.フライ著　片田範子，山本あい子訳：看護実践の倫理，日本看護協会出版会，2000. ・INR日本版編集員会：臨床で直面する倫理的諸問題，日本看護協会出版会，2004. ・石井トク：看護の倫理学　丸善，2002.
備考	

科目区分	基礎分野		聴講	可
授業科目名	情報と教育			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	2単位　30時間	
科目責任者	狩野太郎	その他		
担当教員	狩野太郎，星野修平，堀謙太			
授業の概要	適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業では、情報処理の基本を学習し、基本的なソフトウェアの活用の演習を通して情報処理の原理・原則を理解するとともに、有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を修得する。			
学科目的	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。			
学科目標	1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解する。 3. 情報表現における倫理を理解する。 4. 情報を活用した教育を実践する意義を述べる。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	情報科学とは（E-mail、学術情報システム説明含む）	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	星野
2	ワープロソフトの基本			
3	著作権と情報モラル			
4	医療における応用			
5	インターネットとWorld Wide Web		必要に応じて学習課題を提示	堀
6	電子メールによるコミュニケーション			
7	表計算ソフトの基本(1)		プリントによる学習課題を提示	狩野
8	表計算ソフトによるデータ解析(1)			
9	表計算ソフトによるデータ解析(2)			
10	表計算ソフトによるデータ解析(3)			
11	表計算ソフトによるデータ解析(4)			
12	文献検索の方法(1)			
13	文献検索の方法(2)			
14	ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄによるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(1)		必要に応じて学習課題を提示	堀
15	ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄによるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ(2)			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	高橋信：マンガでわかる統計学，トレンド・プロ，2004. 田久浩志，小島隆矢：マンガでわかるナースの統計学，ビーコム，2006.
備考	

科目区分	基礎分野		聴講	可
授業科目名	教育の原理			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　15時間	
科目責任者	清水和夫	その他		
担当教員	清水和夫			
授業の概要	教育の目的や役割を理解するうえで、関連する法律の理解は不可欠である。本授業では、我が国の教育の現状と課題を踏まえ、教育と法律の関係について学び、教育の機能及び教師の法的責任について理解を深めるものとする。			
学科目的	教育学の基礎的・基本的内容について学び、学習の意義とその多様なあり方を理解する。			
学科目標	1．教育の機能、目的、方法について基本的な知識を理解する。 2．学校、教育課程、教師等に関する諸制度を理解する。 3．わが国の教育の現状における課題を考察する。			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	オリエンテーション・教育の機能と目的	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	清水
	2	教育法とは何か･･･教育六法の活用			
	3	教育法制理解と現代の教育問題の考察			
	4	アンケート調査から教育問題を検討する①			
	5	アンケート調査から教育問題を検討する②			
	6	様々な教育課題を検討する			
	7	わが国の今後の教育の在り方を考える			
	8	まとめ			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・喜多明人他：解説教育六法2014，三省堂，2014.
備考	

科目区分	基礎分野		聴講	可
授業科目名	青年期の発達と学習			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　30時間	
科目責任者	三井里恵	その他		
担当教員	田村文子, 三井里恵			
授業の概要	青年期の発達的特徴とそれに関わる教師の役割を学び、学習過程における対象者の心理的理解を深めるための理論や知識、技術を学習する。また、青年期における心の発達課題とその支援の在り方について考察する。			
学科目的	青年期の発達や学習過程を理解し、教育的支援を必要とする対象への理解を探る。			
学科目標	1．成長発達に伴う学習者の心理を理解する。 2．発達と教育、学習のメカニズム、学習過程や動機づけなど、教育場面に活用する方法を理解する。			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	心理学とは何か	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示　教科書は使用せず、毎回用意するレジュメを用いて講義を行う	三井
	2	人間の発達の諸相			
	3	コミュニケーションの発達と教育			
	4	発達に伴う学習者の心理			
	5	学習理論と行動の理解			
	6	青年期・成人期の心理的な問題と回復過程	講義	必要に応じて学習課題を提示	田村
	7	心理的な問題による学習への影響			
	8	学習と動機づけ	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示　教科書は使用せず、毎回用意するレジュメを用いて講義を行う	三井
	9	学習者はいかにして学ぶか			
	10	さまざまな教授方法			
	11	学習指導と評価測定			
	12	教育・学習をめぐる諸問題			
	13	事例の検討（1）			
	14	事例の検討（2）			
	15	まとめ			

評価方法	出席状況、授業参加状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・遠藤由美：コンパクト新心理学ライブラリシリーズ　青年の心理-ゆれ動く時代を生きる，サイエンス社 ・実森正子，中島定彦 共著：コンパクト新心理学ライブラリシリーズ　学習の心理-行動のメカニズムを探る，サイエンス社 ・多鹿秀継：コンパクト新心理学ライブラリシリーズ　教育心理学-より充実した学びのために，サイエンス社
備考	

科目区分	基礎分野	聴講	可
授業科目名	教育環境		
授業形式	講義・演習	区分	必修
開講時期	後期	単位	2単位　30時間
科目責任者	中園有希	その他	
担当教員	中園有希		
授業の概要	教育環境の魅力的で多彩なデザインは、豊かな学びを生みだす前提であり、鍵でもある。本授業は、看護学教育における教育環境のデザインについて、理論・実践の双方から考察するために、以下の2本立ての内容を組み合わせて進めていく。 ①講義やディスカッションを通し、「授業のデザインと批評」、「教材開発」、「専門職としての教師」、「ケア」の4視点から看護学教育における教育環境を捉える。 ②受講者一人一人に教育実習時の探究課題を持ってもらい、課題が似た受講者同士で、協働的な取り組みとグループ発表を行ってもらう。 授業内容は受講者のニーズに応じて柔軟に編成する。多様な視点を大切にしつつ、様々なテーマを受講者とともに考える。		
学科目的	学習活動に適した教育環境を学習し、看護学教育の実践に最適な教育環境について理解する。		
学科目標	1．安全で快適な教育環境としての物的環境及び精神的環境について理解する。 2．学習活動が展開される場として、学習者の学習活動を効果的にできる教育環境を整える意義について理解する。		

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	オリエンテーション	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	中園
2	授業のデザインと批評(1)：「学び」って何だろう			
3	授業のデザインと批評(2)：授業研究の手法			
4	グループ発表①			
5	授業のデザインと批評(3)：授業を見る			
6	授業のデザインと批評(4)：授業を見る			
7	海外における看護教育の事例			
8	グループ発表②			
9	専門職としての教師(1)：教職の専門性			
10	専門職としての教師(2)：同僚性と学校づくり			
11	グループ発表③			
12	教材開発(1)：教材の種類			
13	教材開発(2)：教材を評価する			
14	ケア(1)：ケアとケアリング			
15	ケア(2)：ケアする学校を目指して			

評価方法	出席を前提とし、グループ発表とレポートにより評価を行う。
参考書・参考文献等	・佐藤学：教育方法学，岩波書店，1996. ・E・オリヴィア・ベヴィス／ジーン・ワトソン：ケアリングカリキュラム―看護教育の新しいパラダイム，医学書院，1999 教科書は特に指定しない。この他、授業内で適宜参考文献を提示する。
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護の本質と専門性Ⅰ（概論）			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　30時間	
科目責任者	山下暢子	その他		
担当教員	山下暢子，高橋裕子			
授業の概要	看護職・看護学の歴史的発展及び看護学の基礎概念である看護・人間・健康・環境について学習する。また、学際的学問としての看護学の特徴を理解し、看護の目標、対象、看護職の役割を学習する。			
学科目的	看護学の発展の学習を通して、自己の看護観を明確にする。			
学科目標	1．看護学に関する歴史的発展を学び、看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。 2．看護の対象と役割および機能を理解する。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	看護の起源 －太古の昔からある看護の機能 －看護の機能分化による看護職者の成立 看護職の起源	講義・演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋
2	看護学の起源 －看護学に関する知見及び調査報告書の集積			
3	看護の役割と機能			
4	看護理論概説	講義・演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	山下
5				
6	ナイチンゲール「看護覚え書き」			
7				
8	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」			
9				
10	キング「キング看護理論」			
11				
12	看護理論演習	演習	毎回、学習課題の提示	高橋
13	看護理論演習			
14	看護理論演習			
15	成果発表			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・フローレンス・ナイチンゲール著　薄井担子他訳：看護覚え書き，現代社，2000. ・ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槇ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006. ・アイモジン・M.キング著　杉森みど里訳：キング看護論，医学書院，1985. ・日本看護協会編：新版　看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，2006. ・ジョセフィンA.ドラン著　小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978.
備考	

科目区分	専門分野			聴講	可
授業科目名	看護の本質と専門性Ⅱ（概念規定）				
授業形式	講義・演習		区分	必修	
開講時期	前期		単位	1単位　30時間	
科目責任者	高橋裕子		その他		
担当教員	高橋裕子				
授業の概要	看護の本質と専門性Ⅰで学んだ看護職・看護学の歴史的発展を基盤として、看護学の基礎概念である看護・人間・健康・環境について探究する。また、看護学教育を実践するためのカリキュラム編成の骨格となる理論的枠組みを構成する重要性を理解する。				
学科目的	カリキュラムを編成する上での主要概念を明確にする。				
学科目標	1．看護実践をする上での概念を明確にする。 2．看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境について理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	カリキュラムにおける概念規定	講義	必要に応じて学習課題を提示	高橋
2	看護実践の概念	講義・演習		
3				
4	「看護」の概念規定			
5				
6	成果発表			
7	「人間」の概念規定			
8				
9	成果発表			
10	「環境」の概念規定			
11				
12	成果発表			
13	「健康」の概念規定			
14				
15	成果発表			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書 参考文献等	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・M.メイヤロフ(田村真、向野宣之訳）：ケアの本質，ゆみる出版，1971. ・P.ベナー，M.サットンフェン，V.レオナード，R.デイ（早野ZITO真佐子）：ベナー　ナースを育てる：医学書院，2011.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	教員と学生の理解			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　15時間	
科目責任者	吉富美佐江	その他		
担当教員	吉富美佐江			
授業の概要	教員の教授活動と学生の学習活動の関連は、教育の効果に影響を及ぼす。この授業では、看護学教育の対象者である学生を心身ともに理解し、教育活動を実践する意義について学習する。また、教員の発達過程の特徴と能力について理解する。			
学科目的	成人学習者としての学生を理解し、教員としての役割、機能、責務について学習する。			
学科目標	1．看護学教育の対象である学生の特徴を理解する。 2．看護学教育に携わる教員の特徴を理解する。 3．学生を心身ともに理解し、看護学教育を実践する意義を学ぶ。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	授業の目的・目標及び授業計画の理解 受講者の学習ニード	演習	『看護学教育における授業展開』の２ページから３ページ「授業の定義」、12ページから22ページ「授業展開を支える理論」を精読する	吉富
2	学生理解に必要な学習に関わる理論 学習意欲 成人学習理論 学習のレディネス	講義	『看護学教育における授業展開』の55ページから68ページを精読する	
3	学生の理解(1) 成人学習者としての特徴 看護学の初学者としての特徴		『看護学教育における授業展開』の76ページから80ページを精読する	
4	学生の理解(2) 少数者としての特徴 ー男子看護学生		『看護学教育における授業展開』の80ページから85ページを精読する	
5	教員の理解(1) 授業展開に際し看護学教員が直面する問題		『看護学教育における授業展開』の85ページから88ページを精読する	
6	教員の理解(2) 新人教員の特徴		『看護学教育における授業展開』の89ージから98ページを精読する	
7	教員の理解(3) 看護専門学校に所属する教員の特徴 看護学教員と倫理的行動		『看護学教育における授業展開』の55ページから98ページを復習する	
8	まとめ	演習	学習成果をまとめる	

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開, 医学書院, 2013.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育制度論			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　15時間	
科目責任者	小笠原　幸	その他		
担当教員	小笠原　幸			
授業の概要	看護学教育に携わる看護職者は、看護学生を含むすべての看護職者の発達を支援し、質の高い看護を提供することを目指す必要がある。この授業では、看護職者の教育的背景を理解し、看護基礎教育の重要性と専門職者としての継続した教育の必要性を学習する。			
学科目的	看護師養成教育、看護学教育の歴史的な展開、法的基盤、制度を学ぶことにより、看護学教育の現状を理解する。			
学科目標	1．看護師養成教育、看護学教育の現状と課題を理解する。 2．看護専門職の教育における主体的学習の意義を理解する。 3．看護専門職が教育的機能を発揮する必要性を認める。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	看護教育学の特徴 看護教育学の定義と理念 看護教育学と看護学教育 看護教育学を学習する意義 主体的・自発的学習	講義	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	小笠原
2	看護師養成教育の現状と課題(1) 看護師養成教育に関わる法的基盤 看護師養成教育の制度上の特徴 社会情勢と看護教育制度			
3	看護師養成教育の現状と課題(2) 看護基礎教育課程のカリキュラム 大学と専門学校のカリキュラムの相違 大学における看護師養成教育の特徴			
4	看護専門職と主体的学習(1) 看護師養成教育の歴史的変遷			
5	看護専門職と主体的学習(2) 教育評価に関する基本的知識 看護専門職に必要な自律的態度と自己評価			
6	看護専門職が教育的機能を発揮する意義と方法 看護卒後教育の定義と構成 看護継続教育の定義と構成 看護職に求められる教育的機能 看護職の発達と自己学習			
7	看護教育学研究の意義と研究成果活用の実際 看護教育学研究の目的と意義 看護教育学研究の成果と看護学教育への貢献			
8	まとめ			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
教科書	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版増補版，医学書院，2014.
参考書・参考文献等	講義中、必要に応じて適宜提示する。
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育課程論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	2単位　45時間	
科目責任者	高橋裕子	その他		
担当教員	山下暢子，高橋裕子，町田理恵			
授業の概要	看護学教育カリキュラム編成の基礎理論を学習し、看護学教員や看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を取得する。			
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育(EBNE:Evidence-Based Nursing Education)に必要なカリキュラム編成の基礎知識を理解する。			
学科目標	1．看護学教育的機能を果たすために必要なカリキュラム編成に必要な知識を習得する。 2．カリキュラム編成の過程を理解する。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	カリキュラムとは	講義	必要に応じて学習課題を提示 課題図書の該当箇所の精読	山下
2	指定規則とカリキュラムの関係　（1）	講義・演習		高橋
3	指定規則とカリキュラムの関係　（2）			
4	指定規則とカリキュラムの関係　（3）			
5	教育目的と教育理念			
6	看護師養成所の到達目標			
7	教育内容の選定と組織化			
8	統合カリキュラムの編成			
9	統合分野の理解と実際　（1）	講義		高橋
10	統合分野の理解と実際　（2）	講義		
11	統合カリキュラムの編成　方向づけ段階	講義		
12	方向付け段階の実際　（1）	講義		町田
13	方向付け段階の実際　（2）	講義		
14	統合カリキュラムの編成　形成段階	講義		高橋
15	形成段階の実際　（1）	講義		町田
16	形成段階の実際　（2）	講義		
17	統合カリキュラムの編成　機能段階	講義		高橋
18	機能段階の実際	講義		町田
19	教育課程の評価	講義・演習		高橋
20	プログラム評価			
21	総合的質管理（TQM)と看護学教育			
22	大学等の自己点検・評価の背景			
23	まとめ			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・看護行政研究会　編集：平成26年度版看護六法，新日本法規，2014. ・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監訳：看護教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1998.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育課程論Ⅱ（カリキュラム構造の理解）			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	前期	単位	1単位　15時間	
科目責任者	高橋裕子	その他		
担当教員	高橋裕子			
授業の概要	各学校の教育課程を持ち寄り、理念、主要概念との各分野における教育内容との関係性を分析する。また、どのような理念からカリキュラムを編成すべきかを考察する。			
学科目的	教育内容を組織化し、カリキュラム編成の構造を理解する。			
学科目標	1．看護師養成施設のカリキュラムを分析し、果たすべき教育的機能について考察する。 2．保健医療専門職者として、教育的機能を発揮するための自己の課題を述べる。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	カリキュラムの分析（1）基礎分野	演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋
2	カリキュラムの分析（2）専門基礎分野			
3	カリキュラムの分析（3）専門分野			
4	カリキュラムの分析（4）専門分野			
5	カリキュラムの分析（5）専門分野			
6	カリキュラムの分析（6）統合分野			
7	カリキュラムの分析（7）統合分野			
8	成果発表と討議			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・看護行政研究会　編集：平成26年度版看護六法，新日本法規，2014. ・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監訳：看護教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1998.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育課程論Ⅲ（カリキュラム編成の実際）			
授業形式	演習	区分	必修	
開講時期	前期・後期	単位	3単位　90時間	
科目責任者	高橋裕子	その他		
担当教員	高橋裕子，廣井寿美			
授業の概要	科学的根拠に基づく実践(Evidennce-Based Practice:EBP)の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育(Evidence-Baced Nursing Education:EBNE)が不可欠である。 この授業では、看護教育課程論Ⅰ(カリキュラム編成の基礎)の既習内容を活用し、EBNEの展開に必要な技術を修得する。仮想の看護師養成施設の設置計画の作成、カリキュラム編成を通し、獲得した知識・技術を看護基礎教育にどのように活用できるか、自己の課題に引き付けて論述する。			
学科目的	カリキュラム編成に必要な知識・技術を実践的に展開する。			
学科目標	1．カリキュラム編成・運用の方法を具体的に説明する。 2．保健医療専門職者として教育的機能を発揮するための自己の課題を述べる。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	仮想の看護師養成施設の必要性についての討議	演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋 廣井
2 3 4	カリキュラム編成：方向付け段階(1) 教育理念、教育目標、卒業生の特性の明確化・成文化			
5 6 7	カリキュラム編成：方向付け段階(2) 教育理念、教育目標、卒業生の特性の用語解作成、理論的枠組みの作成			
8 9 10	カリキュラム編成：方向付け段階(3) 内容の諸要素の抽出			
11 12 13	カリキュラム編成：方向付け段階(4) カリキュラム軸の抽出			
14	成果発表と討議			
15 16	カリキュラム編成：形成段階(1) カリキュラムデザインの決定			
17 18 19	カリキュラム編成：形成段階(2) レベル目標の設定			
20 21 22 23	カリキュラム編成：形成段階(3) 科目目標の設定			
24 25	カリキュラム編成：機能段階(1) 授業設計①　テーマの決定			
26 27	カリキュラム編成：機能段階(2) 授業設計②　目標の分析			
28 29	カリキュラム編成：機能段階(3) 授業設計③　授業案の作成			
30	成果発表と討議			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	31	仮想の看護師養成施設の必要性の再検討	演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋 廣井
	32	カリキュラム編成再検討： 方向付け段階 形成段階			
	33				
	34				
	35				
	36				
	37				
	38				
	39				
	40				
	41				
	42				
	43				
	44				
	45	成果発表と討議			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・ 参考文献等	・看護行政研究会　編集：平成26年度版看護六法，新日本法規，2014 ・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監訳：看護教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. ・G.トレス他：看護教育カリキュラムーその作成過程ー，医学書院，1998.				
備考					

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅰ			
授業形式	講義	区分	必修	
開講時期	前期	単位	2単位　45時間	
科目責任者	松田安弘	その他		
担当教員	松田安弘，大佐古紀雄			
授業の概要	授業は、学校の教育目標や学科目の目指す目標と一貫性を持ち展開することが重要である。この授業では、授業の基本形態を学習し、学科目的・目標の達成を目指した教育機器や教材を精選し授業を設計する方法について理解する。			
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育(EBNE:Evidence-Based Nursing Education)に必要な教育課程展開の基礎知識を理解する。			
学科目標	1．学習目的・目標、学生の状況に応じた授業形態について理解する。 2．最適な授業を展開する方法を理解する。 3．主体的、自発的学習活動を有用にするための知識を理解する。 4．授業展開に先立ち実施する授業計画の必要性を認める。			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	「授業」を構成する多様な要素と制約条件Ⅰ	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示。また、8回の授業を終了した後にレポート提出を課す。	大佐古
	2	「授業」を構成する多様な要素と制約条件Ⅱ			
	3	シラバスと授業デザイン			
	4	授業の形態と多様な授業展開Ⅰ			
	5	授業の形態と多様な授業展開Ⅱ			
	6	学習者を中心に置いた学習（主体的学習・自発的学習）			
	7	授業を進める上での学生理解			
	8	授業の成果とは～学習成果の評価と授業の振り返り～			
	9	教授者の教育に対する信念Ⅰ	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	松田
	10	教授者の教育に対する信念Ⅱ			
	11	本科目を学習する意義、「授業」の定義			
	12	教育学・看護教育学の用語Ⅰ			
	13	教育学・看護教育学の用語Ⅱ			
	14	授業展開上直面する問題Ⅰ			
	15	授業展開上直面する問題Ⅱ			
	16	効果的な授業展開に必要な要素			
	17	授業設計と授業の組織化Ⅰ			
	18	授業設計と授業の組織化Ⅱ			
	19	授業目標分類学（タキソノミー）			
	20	教育目的・目標の設定Ⅰ			
	21	教育目的・目標の設定Ⅱ			
	22	看護教育学における教材			
	23	看護教育学における教具			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
教科書	・池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹：成長するティップス先生、玉川大学出版部 ・佐藤浩章編：大学教員のための授業方法とデザイン、玉川大学出版部、2010。 ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2013.
参考書・参考文献等	・河野義章編著：授業研究法入門，図書文化，2009.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）			
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修	
開講時期	前期・後期	単位	4単位　135時間	
科目責任者	松田安弘	その他		
担当教員	松田安弘，高橋裕子			
授業の概要	講義は、理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識及び態度の習得を目ざす授業形態である。この授業では、講義の授業設計とその展開を学び、学習者の主体性を尊重した学習を促す授業計画の立案に必要な知識、技術、態度を学習する。			
学科目的	「講義」形式により授業を展開するための授業計画を立案し、講義を展開する。			
学科目標	1．講義による授業設計と展開の方法について理解する。 2．講義における授業計画を立案するための知識、技術、態度を習得する。 3．授業案の意義、必要性を認める。 4．学生の主体的学習を促す講義の展開に向けた自己の課題を見いだす。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	看護学の講義における教授活動の特徴Ⅰ	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	松田
2	看護学の講義における教授活動の特徴Ⅱ			
3	講義の実際（参加観察）			
4	講義の参加観察による学習成果			
5	講義の参加観察による学習成果の発表			
6	授業設計と展開（模擬授業の観察）			
7	模擬授業の参加観察による学習成果			
8	講義における授業案の構成			
9	目的・目標の設定			
10	内容の諸要素の選定			
11	学生のレディネス			
12	講義に用いる教授技術			
13	効果的な授業展開の方法Ⅰ（模擬授業の観察）			
14	効果的な授業展開の方法Ⅱ（模擬授業の観察）			
15	模擬授業の参加観察による学習成果			
16	模擬授業の参加観察による学習成果の発表			
17	講義の準備、模擬授業のオリエンテーション			
18	授業案の作成 1．各自で講義内容を一つ決め、講義の指導案を作成し、模擬授業を実施する準備を行う 2．講義内容に関する試験問題を作成し評価方法を検討する	演習		松田 高橋
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28	模擬授業（1人20分模擬授業、10分討議）			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	29	模擬授業（１人20分模擬授業、10分討議）	演習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	30				
	31				
	32				
	33				
	34				
	35	教育実習オリエンテーション	講義		
	36				
	37	教育実習	実習		
	38	教育実習			
	39	教育実習			
	40	教育実習			
	41	教育実習			
	42	教育実習			
	43	教育実習			
	44	教育実習			
	45	教育実習			
	46	教育実習			
	47	教育実習			
	48	教育実習			
	49	教育実習			
	50	教育実習			
	51	教育実習			
	52	教育実習			
	53	教育実習			
	54	教育実習			
	55	教育実習			
	56	教育実習			
	57	教育実習			
	58	教育実習			
	59	教育実習			
	60	講義指導案作成の再検討 １．講義の指導案を再検討する。 ２．評価方法を再検討する。	講義 ・ 演習		高橋
	61				
	62				
	63				
	64				
	65				
	66				
	67				
	68	効果的な教授活動に向けた自己の課題	講義		
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2013.				
参考書 参考文献等	・マリリンH.オーマン，キャスリーンB.ゲイバーソン著　舟島なをみ監訳：看護学教育に おける講義・演習・実習の評価，医学書院，2009.				
備考					

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）			
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修	
開講時期	前期・後期	単位	2単位　60時間	
科目責任者	松田安弘	その他		
担当教員	松田安弘，　高橋裕子			
授業の概要	演習は、講義で学んだ理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識、技術及び態度の習得を目ざす授業形態である。この授業では、演習の授業設計とその展開を学び、学習者の主体性を尊重した学習を促す授業計画の立案に必要な知識、技術、態度を学習する。			
学科目的	「演習」形式により授業を展開するための授業計画を立案し、演習を展開する。			
学科目標	1．演習による授業設計と展開の方法について理解する。 2．演習における授業計画を立案するための知識、技術、態度を習得する。 3．授業案作成の意義、必要性を認める。 4．学生の主体的学習を促す演習の展開に向けた自己の課題を見いだす。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	オリエンテーション 授業形態「演習」の定義と種類	講義	必要に応じて学習課題を提示	松田
2	グループワークに連動する講義の参加観察①（生活と研究）	実習		
3	参加観察（生活と研究）による学習成果①	演習		
4	技術演習に連動する講義の参加観察③（筋肉内注射の技術）			
5	技術演習の参加観察④（筋肉内注射の技術）			
6	参加観察（筋肉内注射の技術）による学習成果②			
7	看護学演習における「教授＝学習活動」の特徴Ⅱ（技術演習）	講義		
8	グループワークの参加観察②（生活と研究）	実習		
9	参加観察（生活と研究）による学習成果②	演習		
10	看護学演習における「教授＝学習活動」の特徴Ⅰ（グループワーク）	講義		
11	参加観察（生活と研究）による学習成果③	演習		
12	グループワークの参加観察による学習成果の発表	演習		
13	技術演習に連動する講義の参加観察①（酸素療法）	実習		
14	技術演習の参加観察②（酸素療法の技術）	実習		
15	参加観察（酸素療法の技術）による学習成果①	演習		
16	参加観察（技術演習）による学習成果	演習		
17	技術演習の参加観察による学習成果の発表	演習		
18	演習の授業設計と授業案Ⅰ	講義		
19	演習の授業設計と授業案Ⅱ	講義		

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	20	授業案の作成①	演習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	21	授業案の作成②	演習		
	22	授業案の作成③	演習		
	23	授業案の作成④	演習		
	24	授業案の作成⑤	演習		
	25	授業案の作成⑥	演習		
	26	看護技術演習の模擬授業①	演習		
	27	看護技術演習の模擬授業②	演習		
	28	看護技術演習の模擬授業③	演習		
	29	看護技術演習の模擬授業④	演習		
	30	効果的な演習展開に向けた課題	演習		
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
参考書・ 参考文献等	・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2013.				
備考					

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）			
授業形式	講義・演習・実習	区分	必修	
開講時期	前期・後期	単位	3単位　105時間	
科目責任者	高橋裕子	その他		
担当教員	松田安弘，高橋裕子			
授業の概要	実習は、講義や演習で学んだ理論や原理・原則を確認し、看護実践に必要な知識、技術及び態度の習得を目ざす授業形態である。この授業では、実習の授業設計とその展開を学び、学習者の主体性を尊重した学習を促す授業計画の立案に必要な知識、技術、態度を学習する。			
学科目的	「実習」形式により授業を展開をするための授業計画を立案し、実習を展開する			
学科目標	1．実習による授業設計と展開の方法について理解する。 2．実習における授業計画を立案するための知識、技術、態度を習得する。 3．授業案作成の意義、必要性を認める。 4．学生の主体的学習を促す実習の展開に向けた自己の課題を見いだす。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	看護基礎教育課程における看護学実習	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	高橋
2	看護学実習における教員の存在と授業過程			
3	看護学実習における学習活動			
4	看護学実習における教授活動(1) 形成的評価に基づく指導			松田
5				
6	看護学実習における教授活動(2) 現象の教材化			
7				
8	看護学実習における教授活動(3) 総括的評価			
9				
10	看護学実習における教授活動(4) カンファレンス			
11	看護学実習における教授活動(5) オリエンテーション			
12	実習指導上直面する困難とその克服			
13				
14	実習指導案作成(1)			高橋
15	実習指導案作成(2)			
16	実習指導案作成 1．実習指導案を作成する。 2．実習の評価方法について検討する。	演習		
17				
18				
19				
20				
21	成果発表会・討議			
22				
23	教育実習	実習		松田 高橋
24	教育実習			
25	教育実習			
26	教育実習			
27	教育実習			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	28	教育実習	実習	必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	29	教育実習			
	30	教育実習			
	31	教育実習			
	32	教育実習			
	33	教育実習			
	34	教育実習			
	35	教育実習			
	36	教育実習			
	37	教育実習			
	38	教育実習			
	39	教育実習			
	40	教育実習			
	41	教育実習			
	42	教育実習			
	43	教育実習			
	44	教育実習			
	45	教育実習			
	46	実習指導案の再検討 １．実習の指導案を再検討する。 ２．実習の評価方法について再検討する	演習		高橋
	47				
	48				
	49				
	50				
	51				
	52	成果発表会・討議			
	53	看護学実習指導における自己の課題			
評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。				
教科書	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2013.				
参考書 参考文献等	・マリリンH.オーマン，キャスリーンB.ゲイバーソン著　舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009.				
備考					

科目区分	専門分野	聴講	可
授業科目名	看護学教育評価論		
授業形式	講義	区分	必修
開講時期	前期	単位	2単位　60時間
科目責任者	岩波浩美	その他	
担当教員	岩波浩美，岡田聡志		
授業の概要	教育目標の達成を目指して行う教育活動において、学生の知識・技術・態度の習得状況や教授過程のフィードバックによる総合的な授業の価値判断を行うことが必要である。この授業では、教育評価の機能及び形態を学習し、看護学教育実践を行う上で必要な評価方法について学習する。		
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育(EBNE:Evidence-Based Nursing Education)を実践する上で必要な教育評価の基礎理論、知識を理解する。		
学科目標	1．対象に応じた評価方法と用具を使用した評価の方法を理解する。 2．大学および専修学校の自己点検・評価について理解する。 3．看護学教育に必要な教育評価の知識・技術・態度を習得する必要性と意義を述べる。		

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	導入：教育評価の意義と機能	講義	必要に応じて学習課題を提示	岡田
2	教育評価の原則			
3	教育目標と教育評価			
4	学習理論と教育評価			
5	評価手法を選択する基準			
6	合否判定基準の設定方法			
7	古典的テスト理論と新テスト理論			
8	高等教育における教育評価の現状と課題			
9	看護学教育評価の特徴と方法	講義	必要に応じて学習課題を提示	岩波
10	評価に用いる測定用具の要件			
11	教育活動の評価 授業過程の評価とその実際①			
12				
13	授業過程の評価とその実際②	演習		
14				
15	学習活動の評価１ 教育目標分類学に基づく目標設定①	講義		
16				
17	教育目標分類学に基づく目標設定②	演習		
18				
19				
20	学習活動の評価２ 学習成果の評価とその実際①	講義		
21				
22	学習成果の評価とその実際②	演習		
23				
24				
25	学習成果の評価とその実際③			
26				
27				
28	学習成果の評価とその実際④			
29				
30	大学および専修学校の自己研修点検評価・まとめ	講義		

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
教科書	・舟島なをみ監訳：看護教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. ・舟島なをみ監訳：看護教育における授業展開，　医学書院　，2013
参考書・参考文献等	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・梶田叡一：教育評価　第2版補訂2版，有斐閣，2010. ・橋本重治：2003年度改訂版　教育評価法概説，(財)応用教育研究所，2003.
備考	

科目区分	専門分野	聴講	可
授業科目名	看護学教育研究Ⅰ（研究の理解）		
授業形式	講義・演習	区分	必修
開講時期	後期	単位	1単位　30時間
科目責任者	高橋裕子	その他	
担当教員	高橋裕子,押尾知子		
授業の概要	科学的根拠に基づく実践（Evidennce-Based Practice:EBP)及び科学的根拠に基づく看護学教育（Evidence-Based Nursing Education:EBNE)の根拠となりうる研究成果を生み出すためには、研究過程と研究方法を理解することが必要である。この授業では、看護学研究に関わる学術用語、研究デザインの種類や特徴、データ収集・分析の方法など研究成果の産出に必要な基礎知識を修得する。		
学科目的	看護学教育における研究の意義および目的を理解し、研究を行う上で必要な基礎知識を修得する。		
学科目標	1．研究過程と研究方法を説明する。 2．研究計画書を作成するための要件を列挙する。 3．研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。		

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	文献検索の意義と方法	講義・演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋
2	研究課題の選択と仮説　（1）			
3	研究課題の選択と仮説　（2）			
4	研究デザイン　（1）　量的研究デザイン			
5	研究デザイン　（2）　質的研究デザイン			
6	測定データ収集　（1） 面接法、質問紙法			押尾
7	測定データ収集　（2） 観察法,生物・物理的データの収集			
8	測定データ収集　（3） 質的データの分析			高橋
9	測定データ収集　（4） 測定用具アセスメントのための信頼性・妥当性			押尾
10	研究データの分析　（1） 研究過程におけるコンピューターの活用			高橋
11	研究データの分析　（2） 記述統計			押尾
12	研究データの分析　（3） 回帰分析,相関,分散分析,多重比較分析、因子分析			
13	研究計画書の作成方法			高橋
14	研究論文の作成、評価			
15	研究成果の活用			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・Polit, D.F.Beck(近藤潤子監訳)：看護研究-原理と方法-第2版, 医学書院, 2010. ・Diers,D：看護研究-ケアの場で行うための方法論-, 日本看護協会出版会, 1998. ・南　裕子：看護における研究, 日本看護協会出版会, 2012.
備考	

科目区分	専門分野	聴講	可
授業科目名	看護学教育研究Ⅱ（研究成果の活用）		
授業形式	講義・演習	区分	必修
開講時期	後期	単位	1単位　30時間
科目責任者	高橋裕子	その他	
担当教員	松田安弘，大澤真奈美，飯田苗恵，高橋裕子，押尾知子		
授業の概要	看護学教育研究Ⅰで得た知識を前提とし、質的研究、量的研究の方法や各々の特徴と意義を学習する。また研究論文の批評を通し、研究成果の活用の可能性について検討する。		
学科目的	研究方法の特徴を理解し、研究遂行に必要な知識・技術・態度を習得する。		
学科目標	１．研究方法論の特徴を理解する。 ２．研究方法論の学習を通して、研究成果の産出や活用に必要な知識を修得する。 ３．研究批評を通し、研究成果の活用可能性を説明する。		

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	研究批評と研究成果活用	講義・演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	大澤
2	探究レベルと研究計画　（1） 因子探索研究の特徴			大澤 飯田
3	探究レベルと研究計画　（2） 関係探索研究の特徴			
4	探究レベルと研究計画　（3） 関連検証研究の特徴			
5	探究レベルと研究計画　（4） 因果仮説検証研究の特徴			
6	KJ法，内容分析，グラウンデッド・セオリーの手法を用いた研究			押尾
7	因子探索研究・関係探索研究			高橋
8	関連検証研究・測定用具開発研究			
9	研究の構造と研究成果の活用過程			松田
10				
11	研究批評 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用して批評する。			高橋
12				
13				
14				
15				

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・Polit，D.F.Beck(近藤潤子監訳)：看護研究-原理と方法-第2版，医学書院，2010. ・Diers,D：看護研究-ケアの場で行うための方法論-，日本看護協会出版会，1998. ・舟島なをみ：看護教育学研究，医学書院，2010.
備考	

科目区分	専門分野		聴講	可
授業科目名	看護学教育組織運営論			
授業形式	講義・演習	区分	必修	
開講時期	後期	単位	1単位　15時間	
科目責任者	茂木佐智子	その他		
担当教員	茂木佐智子			
授業の概要	看護学教育組織の組織形成である組織目的の設定の重要性を理解し、看護学教育に必要な組織の構造と機能を教員組織、管理運営、自己点検・評価の視点から学習する。			
学科目的	看護学教育の目的を理解し、看護職養成の教育機関の運営について理解する。			
学科目標	1．学生の受け入れ、教育施設・設備、教員組織など看護学教育活動を推進するシステムについて理解する。 2．看護学教育組織における目的設定の重要性を認識し、組織を維持していく意義を見出す。			

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	運営論とは	講義・演習	必要に応じて学習課題を提示	茂木
2	看護学教育組織について　1			
3	看護学教育組織について　2			
4	組織運営の現状と課題　1			
5	組織運営の現状と課題　2			
6	組織運営の現状と課題　3			
7	看護学組織運営の評価			
8	まとめ			

評価方法	出席状況、課題提出など総合的に評価する。
参考書・参考文献等	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第5版増補版，医学書院，2014. ・看護教育問題研究会監修：看護教育自己評価指針　看護教育必携資料集，メジカルフレンド社，2009. ・看護行政研究会　編集：平成26年度版看護六法，新日本法規，2014.
備考	